

女性の人権

○ 女性が社会のあらゆる分野に参加できる社会へ

誰にとっても安心・安全で心豊かな社会を実現するためには、多様な立場を生きる1人ひとりが主体的に社会に参加することが必要です。

しかしながら、政治・行政・雇用分野をはじめ多くの分野で女性の参加は依然少ない状況です。

その背景には、根強い固定的性別役割分担意識があります。

○ 固定的性別役割分担意識をなくした男女平等の社会へ

● 仕事と家庭・地域における参加のバランス

「男は仕事、女は家庭」といった固定的な性別役割分担意識は、女性に家事や子育て、介護の負担を求め、それが女性の社会参加を困難にすることがあります。

一方、男性に経済的責任を強く求めることが、男性の家庭や地域との関わりを阻害する要因にもなっています。



● 雇用の現場における男女格差

性別により仕事が振り分けられたり、賃金や昇進に格差のある雇用構造が存在します。

また、出産を機に約7割の女性が仕事を辞めています。再就職は厳しく、働く女性の半数が非正規労働者です。

このようなことから、女性は経済的困窮に陥りやすくなります。

● 地域の方針決定過程に少ない女性の姿

自治会やPTAなどの地域活動は、主に女性が担っているものの、その方針決定の場は多くの男性で占められています。

また、慣習やしきたりの中には、女性を不平等に取り扱うものが、いまだ見受けられます。



○ 一緒に考えよう、女性の人権

● 生涯を通じて健康な生活を送るために

女性は、妊娠や出産をする可能性があるなど、生涯を通じて男性と異なる健康上の問題に直面します。

このため、心身の健康について正確な知識と情報を得て、主体的に行動し、健康に生きていくことが必要です。

また、男女が互いの身体的な性差を十分に理解し、意識を深めることが重要です。

全ての女性が生涯を通じて健康な生活を送るために、男女の性差に応じた健康支援などの総合的な取り組みが求められます。

● 安心・安全に生きるために

誰でも安心・安全に暮らし、自分の生き方は自分で選択し、人生を豊かに生きる権利があります。

DV（ドメスティック・バイオレンス）や性暴力、セクシャル・ハラスメントなど女性に対する暴力は、その人権を侵害する絶対許されない行為であり、根絶する必要があります。

また、就職は生活の経済的基盤であり、自己実現にもつながります。性別にかかわらず平等に雇用の機会が保障され、生活の安定と生きがいが見られる労働環境が求められます。

○ 自分らしく生きることができると社会を目指して

「男は仕事、女は家庭」や「男らしさ・女らしさ」といった性別で固定的に役割や特性を決めてしまう固定観念は、性別にかかわらず個性や能力を発揮する機会を奪い、男女平等の実現を阻害します。一人ひとりが尊重され、自分らしく生きることができると社会の実現のために、固定的性別役割分担意識を解消していくことが重要です。

